

# あいな里山公園情報

～国営明石海峡公園神戸地区だより～



## トピックス

- 公園作りと市民事業について
- 田植えイベント開催！
- あいな里山公園の田植え
- 公園のなまえ
- お知らせ・イベント情報
- 淡路地区からのお知らせ

## 梅雨のあいさつ

最近、毎年のように言われている事なのですが、今年も何やら天候不順の様子です。

日照時間が少なく、元気が無いのは作物だけでなく、人間もそうなのかもしれません。梅雨の時期、なかなか天気に恵まれないかもしれませんが、休日に晴れ間がのぞいていたら、外に遊びに出かけてはいかがでしょうか。

神戸地区は、アクションリサーチも始まり、イベントもこれから増えていきます。そして淡路地区では、海岸ロゲートが夏にリニューアルオープンします。是非、チェックしてみてください。

## 製作・発行

国営明石海峡公園事務所 神戸地区現場事務所  
〒651-1104 神戸市北区山田町藍那字伝庫14  
TEL(078)593-3943 FAX(078)593-3944  
kobe@kokueiakashi.go.jp  
http://www.kokueiakashi.go.jp

公園のなまえ

お知らせ

淡路地区からのお知らせ

## 国営明石海峡公園？ あいな里山公園？

この公園、正式名称は「国営明石海峡公園神戸地区」ですが、多くの方から「あいな里山公園」の名で呼ばれています。これは、所在地である藍那と、里山保全活用型の公園を目指すことから、公園内で活動している市民事業者を中心にそう呼ばれ始め、通称として定着していきました。そのため、この情報誌も「あいな里山公園情報」としてしています。ですが、地図や公式書類には、「あいな里山公園」の名前は出てきませんので、他の方にお伝えする際にはご注意ください。

## イベント情報



### ■市民事業活動掲示板

- ヤマモモ酒作りとじゃがいも掘り
- 【日時】 7月16日(日) 10時～
- 【集合】 相談ヶ辻の家
- 【費用】 一家族3000円(土産付)
- 【主催】 あいな耕作くらぶ・あいな茶屋



市民交流民家 現在の外観



市民交流民家 現在の内観

■工事のお知らせ  
これから茅葺き屋根の市民交流民家の内外装工事とプログラム準備棟の工事が始まりま

す。工事期間中は、付近の立ち入りを制限させていただきますのでご理解とご協力をお願い致します。

■事務所からのお願い  
神戸も梅雨入りをして、雨の多い季節になりました。雨の恵みは嬉しいところですが、自然環境の中では、雨により地盤が緩んで斜面が崩れたり、倒れた木が他の木にもたれかかり(かかり木と呼ばれる状態)、その木が倒れてくる危険が生じる恐れもあります。このような現場を見かけましたら、現場事務所までご一報いただきますよう、お願い致します。

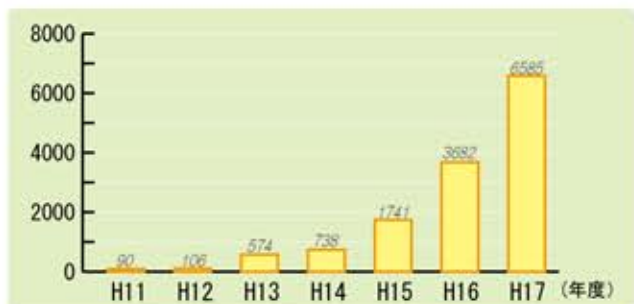


海岸ロゲート周辺イメージパース

## 海岸ロゲート リニューアルオープン！

今春、チューリップで好評をいただいた淡路国営明石海峡公園ですが、まもなく海岸ロゲートをリニューアルオープンします。この夏、潮風を感じに淡路島に出かけてみてはいかがでしょうか。

晴れた休日には、多くの方が太陽と緑の道を通り、田植えや観察会、時におまつりが催される事もある、国営明石海峡公園神戸地区（以下神戸地区）ですが、ご存知のとおり開園していません。



許可を受けた団体が運営しているイベントなどに参加していただいた方の数になります。（神戸地区にはハイキングに来られる方も多くいますが、この六千五百人の中には含まれておりません）

神戸地区では様々な市民団体などの活動が行われていますが、許可を受けた行為以外は実施出来ませんのでご留意下さい。

晴れた休日には、多くの方が太陽と緑の道を通り、田植えや観察会、時におまつりが催される事もある、国営明石海峡公園神戸地区（以下神戸地区）ですが、ご存知のとおり開園していません。

昨年度は、公園事務所直営の企画と、市民団体などによるイベントの参加者を合わせると、延べ六千五百人を超える方に公園にお越し頂いております。この数字は、公園事務所が主催して企画運営しているものか、所定の手続きをした上、



市民事業が多く行われている棚田風景

里山という生きた自然を舞台とする公園では、許可に基づき、整備や企画運営、安全管理を担う事が出来る市民事業の存在が欠かせないと考えています。その為には、市民の方々に広く市民事業を理解いただく事と、市民事業を担う団体それぞれが向上していく必要があると考えておりますので、これからも温かく、そして時には厳しい眼で市民事業を応援してください。



田植えのようす

素足で挑戦！  
無農薬の米作り  
～おやニコメづくり道場～

藍那の稲作

藍那の棚田。それは多くの人が棚田という言葉の響きから思い描くような、潤沢な水の恵みとはほど遠い、常に水の確保に苦勞した歴史をもつ棚田です。一度どこかで田植えを経験された方であれば、稲を植える時に水がはってある田んぼに違和感を覚えるかも知れません。しかし、これこそ先人の苦勞と知恵が活かされた、藍那独特の稲作のやり方なのです。

湧き水や川の水が無い場所では、使える水はため池の水と雨しかありません。使えば無くなるため池の水と、いつ降るか分からない雨を頼りに稲作をするには、早い時期から田



田植えのようす



あいな里山バイオパークによる田植え

んぼに水を溜めて、大切に使うていく必要があったのです。初めての田植えでも、初めて田んぼに入る子どもにとっても、水が多すぎて少なくとも、どちらにしても未知の世界。裸足になって踏み出す第一歩には、勇気を振り絞った子どももいた様子。生まれて初めての泥の感触と、見慣れない稲の苗に、戸惑いながら、少しづつ植えていきます。手植えのあとには、

田植え機の実演も行われましたが、田植えが終わると、子ども達はすぐに虫探し。好奇心の赴くままに動き回るのは、子どもの特権

あいな里山公園の田植え

今年、田植えをしたのは、他にあいな耕作くらぶとあいな里山バイオパーク。また農・都共生ネットこうべの方々も今年はいいな耕作くらぶの皆さんと一緒にされています。

5月28日のおやニコメづくり道場を皮切りに、6月3日、10日、11日とあいな耕作くらぶが連続で田植えを行い、11日にはあいな里山バイオパークが不耕起、冬季湛水の田んぼで田植えをされています。

現在、長屋門前の田んぼから、木見川にか

なのかも知れません。公園になった藍那の田んぼは、お米だけでなく、未来を担う子ども達も育ててくれているようでした。



田植え機の実演



あいな耕作くらぶ 田植え後のお食事会

生活の場としての里山でもなく、一般的な公園でもない、里山公園としての役割を見つめるための挑戦は、始まったばかりです。

手を掛け、愛情を込めて育てたお米や野菜がおいしいように、里山公園も、いかに多くの方に気持ちをこめて関わっていただく事が出来るかが、成功の鍵を握っているような気がしています。